

石川県剣連だより 剣風春秋

第29号
発行
石川県剣道連盟
広報委員会



石川県剣道連盟副会長(総務委員長) 南 信廣

ホームページ開設の 取組みについて

本年四月、新役員による初の執行部会において、当連盟のホームページ開設の方針が決定され、その事務は総務委員会が担当することとなりました。

度から中学校体育授業での武道必修化も始まります。こうした現状においては、時流に乗った情報発信、対象に応じたアプローチの仕方も大切なことだろうと思います。

以降、総務委員会の開催や制作会社担当者との打ち合わせ等を繰り返し行い、何とか予定どおり、十一月一日に一般公開の運びとなりましたので、その取組状況を簡単に報告いたします。

したがって、「心」「技」「体」及び「剣道愛好者の思い」の頁は、大上段に構えるのではなく、一般の方々にも分かりやすく平易な言葉で語りかけ、剣道実践の効果を素直にご紹介させていただきました。

先ず開設のコンセプトは、二本立道の魅力を紹介して、剣道人口の増加に資することです。世は正にネット社会。特に児童を持つ若い親御世代ともなると、日々のニュース閲覧や各種情報収集、ショッピング等はネットを通じて行っている割合も高くなつてきており、また、来年

何れの頁も、ビジュアルに写真を多用し、音声も加えて道場の雰囲気を出してみました。加賀、金沢、能登の各地区、年齢層では少年剣道教室からねんりん稽古会まで、また、ママさん剣道、居合道と、できるだけバランスを考え登場いただきました。ただ、今回取材出来なかつたところは、次回以降で対応で

できればと考えています。

二つ目は、会員への情報提供と利便性に資することです。支部役員を含めた組織体制と年間行事予定を掲載し、稽古場情報として、一般剣道、少年剣道、居合道別に一覧表化しました。また、昇段審査申込用紙については、随時ダウンロードして活用いただきたいと思います。

さて、開設後の状況ですが、本件開設に際し、(財)全剣連のホームページ上においても特別にご紹介していただき、そうした効果等もあつてか、十一月末までの一ヶ月間の総アクセス件数は、七、三四三件となりました。分析結果では、海外や携帯からのアクセスもあるなど極めて順調に推移しております。

一方、今後の課題ですが、ホットな情報をいかに適時適切に発信していけるかどうかです。これまでのところ、「新着情報」として順次発信しており、その第一号として、「山口国体」少年女子五位入賞の快挙を掲載できたことは、この上ない喜びでした。来春以降、試合や行事等が多くなる時期は発信作業もかなり大変になりますが、事務局や各委員会とも連携し、開設趣旨に沿うよう努力していきたいと思

っております。

今回、各稽古場の取材に際しては多大なるご協力をいただき、誠にありがとうございます。また、多くの先生・指導者がそれぞれのお立場で地道に取り組まれている姿をこうした形で取り上げることが出来、大変嬉しく思つた次第です。今後もこのホームページを通じて、当連盟の動きや各支部等の活動が分かりやすくなれば、より一層剣道界の発展に繋がるのではないでしようか。

因みに、トップページの、タイトルバーの青紫色は当連盟旗の色に合わせたものであり、「剣心一如」の額は白山市剣道場(啓武館)に掲出されているもので、当連盟顧問の杉山實先生直筆のものでしたのでご紹介しておきます。

終わりになりますが、昼夜分かつた七百枚もの写真撮影やデザインに献身的なご指導をいただきました服部デザイン設計室の服部光彦先生、また、終始細部にわたりご配慮をいただきました制作会社ヨシダ印刷(株)の清田さん、松本さん、小坂さん、そのほかご協力いただきました関係の皆様にご心よりお礼を申し上げます。



日曜会と石川県剣道連盟との 交流の歴史

日曜会副会長 辻 広一

石川県剣道連盟の皆様におかれましては、ご壮健にて日々稽古にご精進のこととお慶び申し上げます。

今年、東日本大震災や台風12号・15号で日本列島が稀有の災害を被りました。県内で被害に遭われた皆様方に心からお見舞い申し上げます。

さて、日曜会の歴史と石川県の交流について寄稿のご依頼がありましたので筆を執らせていただきました。

日曜会の前身は、昭和45年頃大阪府所済美館道場において、大阪矯正管区剣道師範であられた西善延先生を慕って、堺の剣道愛好家が集まって始まった稽古会です。

年を辿るにつれて参加者が増えてきたため、会則を整備して名称を「日曜会」と定め、故笹井正彦

範士を初代会長として昭和50年4月に発足しました。時恰も全日本剣道連盟が「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である。」との剣道理念を發布した記念の年でもありました。

発足後も入会者が増え続け、下村清範士、故国分国友範士などの当時の若き精鋭が会員に名を連ねていました。

発足から35年を経る中で、長谷川寿、小川忠太郎、重岡昇、中倉清、井上正孝、長井長正、井上義彦各先生など多くの剣豪が来会されるとともに、国内外からも多くの剣友が訪れています。

今日では、奥園國義、下村清、秋山英武各範士をはじめ、上垣友成、花澤博夫、山畑阿威磨、松田勇人八段の各先生にもご指導をいただいています。現在140名の会員で構成し、毎週日曜・祝祭日、年

末年始の午前9時30分から稽古を行っています。また、昭和53年に西先生の故郷であります奈良県十津川村との交流を皮切りに、毎年他府県の剣友とも交流を重ねています。日曜会と石川県の交流の歴史ですが、当時の金沢市剣道連盟会長であられた松本栄一先生、穴田龍太郎先生ほか数名の先生方が大阪税関（長井長正範士が師範）

との交流稽古のため来阪された際、日曜会に立ち寄られ稽古をお願いしたとき、松本会長と笹井会長が意気投合し、昭和57年に県立武道館で金沢市剣道連盟との交流稽古会が実現しました。これを契機として昭和61年金沢市、62年加賀市、平成2・4年小松市、平成7・9・12・14・15年には金沢市・小松市で交流させていただきました。おられます。

また、西先生が小松市剣道協会の顧問に就任されたことを機に平成16年から毎年小松市と交流させていただきました。今年も12月10日と11日にかけて小松市桜木体育館で交流させていただく予定です。

す。金沢市剣道連盟と日曜会交流をきっかけとして、石川県剣道連盟との交流に広がっております。とを大変うれしく思っております。

日曜会も会員の高齢化が進み、交流稽古に参加する会員が少なくなってきたり、次代を担う若き剣士の交流会への参加が課題となっております。若者たちに技と体の修練はもとより、交流を通して多くの剣友と「心の和」を広げ、人格を涵養する大切さを知ってほしいと思っています。

これからも、石川県剣道連盟の皆様方と日曜会の会員、とりわけ若い会員がより一層の交流を深めることができれば幸甚に存じます。終わりになりましたが、石川県剣道連盟の益々のご発展と皆様方のご健勝ご多幸を祈念いたしまして、筆を置かせていただきます。



「中学校における武道必修化について」

石川県剣道連盟副会長 末平 佑二

学習指導要領の改訂で、平成24年度から全国約11,000校のすべての中学校で必修となる武道。先日、千葉県の武道（剣道）

研究指定校の成果を聞く機会を得ました。通常、剣道はどの中学校や高校でも秋から冬にかけて、特に北陸ではグラウンドが使用できない時期に実施されることが多いのですが、その中学校では、入学直後の4月から5月に実施しました。その結果、子どもたちは緊張感の中で凛とした姿勢と大きな声で挨拶ができるようになり、学校全体に活気とさわやかさが出てきたという実践報告でした。礼に始まり礼に終わる武道の習わしが、腹から大きな声を発する剣道の特性と相まって、普段の生活指導に成果が生かされた例です。

武道をはじめとする日本の伝統文化は、すべて忍耐力や自制心を養うようにできていると言われます。その点では、武道は極めて教育効果が高い教材ということになります。遊びの要素が少ないだけに、すべての生徒が学ぶということになると、「分かる↓できる

↓おもしろい」授業の展開が一段と求められることとなります。指導者の資質向上はもとより、用具や武道場の整備というハードルを越えることも課題となりますが、今年度本県で地域連携指導実践校として文部科学省の指定のもと、研究と発表を実施された小松市立松陽中学校、輪島市立東陽中学校の剣道授業の研究成果も大いに参考としたところです。

全日本剣道連盟では、学習指導要領の改訂で武道の教育的価値が強く求められることを受け、他の武道団体に先駆けて、平成20年に「武道必修化検討会」を立ち上げました。21年4月には剣道指導資料「剣道授業の展開」が刊行され、現在研修会や講習会で広く活用されています。

また、21年度から普及委員会の中に、「学校教育部会」を新設し、武道必修化に伴う剣道の課題の検討、諸施策の立案



平成22年11月、石川県剣道連盟より県下の全中学校に贈呈

が行われています。全剣連の機関誌「剣窓」の23年度5月号から12月号まで、8回にわたって連載された「中学校武道（剣道）に関する調査報告書」もその一つです。

その内容である、調査1「児童・生徒の意識調査」、調査2「中学校保健体育教員・剣道部顧問教員の実態調査」、調査3「中学校・高等学校部活動指導者の意識調査」について、以下、概要を簡単に述べると、子どもたちは、剣道に対して「伝統的」、「礼儀正しい」というイメージを抱いている割合が高かったことから、「礼法」は丁寧に指導すること、また、「剣道の授業をやりたくない」の理由として、「むずかしそう」との答えが多かったことから、さらに分かりやすく指導することが求められていることが浮き彫りになりました。

また、剣道具がない、数が不足している、専門的に指導できる教員がいない、さらには武道場が設置されていないなどの課題も多く寄せられました。

部活動指導者では、剣道を伝統文化として捉えて、その教育的効果に期待しているという回答が多くありました。

今後は、この調査結果等を参考に、中学校における剣道授業普及のための諸施策が推進されることとなります。施策の柱の一つ、全国を9ブロックに分けて開催される「全国剣道指導者研修会」もすでに22年度から国庫補助事業としてスタートしています。



北信越ブロック研修会 心とからだをほぐしてから

先般、11月5、6日には、北信越ブロックの研修会が長野県で開催され、本県からも3名の教員が参加しました。剣道具のある授業例、剣道具のない場合の授業例など、多様な状況に応じた授業の展開や指導の方法をテーマに行われた研修でしたが、その成果が今後さらに広がることを期待したいものです。

剣道六・七段審査会 8月20・21日 いしかわ総合スポーツセンター



七段に昇段して

山本 孝人

あり一生後悔すると思ひ、続ける決意をいたしました。その決意が、六段を取ると言

何の実績もない私にとって七段は無縁の領域だと思っていました。いえ、七段を取ろうとすら思いませんでした。意識したのは六段に昇段した時ですが、やはり基は五段の時期だと言えらるでしょう。長い間、そのまま稽古を続けて行くマンネリ化。下位の者と稽古しても当てるだけの打突。そのうち仲間達がどんどん昇段して行く。気にはしていたがそれはそれでいいと思ひ流していました。そんな中、少年剣道での指導中、子供を厳しく叱りつけた時、子供の目が自分を否定するかのように見つめている視線にゾツとしました。もちろん子供にはそんな気は無いのですが、向上心が無くなり、ごまかして剣道をしてる自分が、現実形となつて出て来た事にゾツとしたのだと思ひます。剣道が続けていく資格が自分に無いのかと思ひ自信をなくし、辞めようと思ひ悩みました。しかし、今までやって来た自分の剣道を消し去る事の方が、もっと自分をごまかしていることで

う事に心を向けさせ稽古に励みました。六段昇段に続き七段昇段に至るまでは、羽咋郡市剣道連盟の諸先生方の厚いご指導と仲間達との真剣な稽古の賜物です。特に七段を目標にした時は、剣道人生最大のイベントとし、気構え心構えのモチベーションをより高め、剣道中心の生活になり、体力作りや体調管理も含め自分なりに一層努力し、稽古に集中しました。その際には家族にも迷惑を掛け、増してや協力までしてもらいました。諸先生方や仲間達そして家族には、感謝の気持で一杯です。七段昇段は、前記の事を素直に受け止めた上、最後まで自分を信じて諦めないで続けて来た基本的な事が結果に現れたものだと思います。これからは、七段と言う剣道家の自覚を持ち名譽を汚さず、より一層精進し稽古に励み、また、地元少年剣士の育成に努め、石川県及び羽咋郡市剣道連盟の発展に微力ですが貢献できたなら幸いです。います。

小学校五年、正課武道で初めて木刀を握りました。昭和20年終戦、剣道は戦犯スポーツとして禁止。昭和21年、旧制中学入学。部活は水泳部でした。体力もつき、後年水連の指導員資格も得ました。剣道との出会いは中学校勤務で剣道部担当となった時です。講習で初段となり、生徒と楽しく稽古に熱中しました。お互い痛い目に会いました。警察署の指導も得て市大会で優勝したこともあります。また、個人として、県武に通い、剣連の先生方・同志の方々と稽古をいたしました。居合道でも三段をいただきました。やはり無理がたたり入院生活も送りました。それでも剣の修行は続けます。剣道教室にも入会です。昭和60年、五段に合格しました。また管理職拜命、職務多忙となり、満足な稽古はできませんでした。平成6年、定年退職。さっそく六段審査を受けました。五・六回、連続不合格。己の未熟と審査

た剣技を得てから受けることにしました。合格は長年の鍛練の結果です。健康第一。規則正しい生活を心掛けました。早朝、素振り50本・剣道形を一通り練習しました。剣道教室・剣連での稽古もできるだけ休まず参加しました。特に足の動きがよくなりました。講習会には必ず出席、自分なりにいろ、研究しました。剣道は厳しい個人競技、勝負の世界です。ゆうゆう石川大会には毎年参加、ねんりんピックにも数回出場させていただきました。風格のある剣士と剣を交えたことは幸せでした。高名な蔦監督の名言「勝負は一瞬の行」、肝に命じました。そして本年八月、78才、念願の六段に合格いたしました。我生涯での最高の快挙でありました。剣連の先生方、同志・青少年の皆様にも心より感謝申し上げます。今後とも、人間形成の理念のもと、生涯剣道を全ういたします。



六段に合格して

金谷 啓次郎

の厳しさを痛感いたしました。初心に戻り、一から出直し。審査は自分で納得し

第83回 社会体育指導員養成講習会(初級) 9月23〜25日 金沢市キゴ山ふれあいの里研修館



講習会に参加して

新森 正也



講習会を受講して

千葉 博美

この講習会に申し込んだ時は、

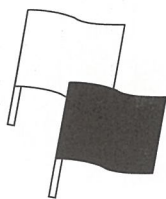
それほど苦にもしていなかったのですが、資料が送付され、小論文を提出すること、各講習の後にテストが行なわれてすべてに合格しないと認定されないこと、50分一コマで一日に12コマと、学校の二日分の講習をこなすということ、不安になりました。さらに当日手渡された受講者名簿には、八段の先生の名前があり、私など大丈夫だろうかと益々不安になりましたが、講師の先生方の指導のもと、無事講習を終えることができました。特に三日間通してお相手をしていただきました近藤繁彦先生には本当に感謝しています。

振り返ってみると、この講習会は自分の剣道を見直すよい機会になったと思います。審判の講習では、「動きをすばやく。直線的に移動しなさい。」と指導されました。このことは、県の講習会でも指摘されたことで、それ以降注意してきたのですが、まだ癖が直っていないことに気付かされました。

た。又、他の組では八段の先生の

試合を審判していましたが、一本も打たずに終わり、「打突がなければ審判の講習にならないなあ。」と思いながらも気迫に満ちた立合いに圧倒されました。実技の講習では、まわり稽古が行なわれて講師の先生にも稽古をつけていただきました。ゆったりとした構えの指導稽古かと思いきや、立ち上がるとすぐにすごい気迫でせまってこられ、耐え切れず打っていくと、いなされ、応じられ、追い込まれて打たれ、いつのまにか掛り稽古になっていく有様で、一本も触らせてもらえませんでした。自分の剣道の甘さを痛感させられました。

日頃は子供達の指導で終わっている自分にとって、このような先生方と接するところができたことは、貴重な体験になりました。



九月二十三日から二十五日まで、全剣連社会体育指導員養成講習会に参加させていただき、私の指導理念と技術を再確認する良い機会となりました。特に印象深かったことを以下述べたいと思います。

いろいろな講義の中で心に残った言葉は、「心身一如」でした。この言葉の意味するところは、体だけではなく、心だけでもなく、心と体が一つになり心身が充実してこそ本物の一打が打てるということなのです。剣道においては、心の修業が大切だということを改めて気づかされました。

また、指導法の講義では技術の向上のためには、以下の四点の法則があることを知りました。

- ① 親近 (学習者の興味のある事例を出して説明する)
- ② 反復 (ただ反復練習するのではなく目標に向けて繰り返す)
- ③ 強弱 (目先を変えて、自分で目標立てる)
- ④ 漸進 (内容や方法を段階的に実

施する)

今日までを振り返ると、勝つための指導にこだわり過ぎ、経験年数や年齢を考慮しない指導であったことを深く反省しました。

また、運動には不可避である外傷に対するの応急処置も、指導者が適切な知識・技能をもって、冷静に対処することが大変重要であることも感じました。

このように指導の理論や具体的な実践方法を知ることができ、大変勉強になりました。

今後、生涯剣道につなげるためにも理論を伴った指導内容をバランスよく考え、稽古に興味をもたせて指導していきたいです。そして、何よりも指導者として自分自身が成長したいと思えます。

最後に、実技・学科試験と緊張の連続でしたが、充実した三日間でした。この紙面をお借りし、講習の機会を与えて下さった石川県連の皆様と全剣連の講師の先生方に改めて御礼を申し上げます。有難うございました。

【全国大会の記録】

◎第3回全日本都道府県対抗女子

7月16日(土) 日本武道館

2回戦 京都1—①石川

先 田中 × 森田

下井 × 長塚

中 杉本コ— 山路

池田 × 千葉

大 橋本—コ岩脇

代 橋本—コ岩脇

3回戦 熊本③—0石川

先 松尾 × 森田

渡邊メ— 長塚

中 内田コ— 山路

平山メ— 千葉

大 古賀ド—コ岩脇

◎第53回全国教職員大会

団体1回戦 石川1—②愛媛

◎第58回全国高校総体

8月9日~12日 弘前市

男子団体予選L 3位 羽咋高

女子団体予選L 1位 星稜高

決勝T1回戦 星稜②—2白河

準々決勝 札幌日大④—0星稜

◎第41回全国中学校体育大会

8月23日~25日 加古川市

男子団体予選L 2位 森本中

女子団体予選L 2位 宇ノ気中

◎第6回全日本都道府県対抗少年

9月18日(日) 大阪市

小学生決勝T 石川0—①神奈川

中学生決勝T 石川1—②北海道

◎第50回全日本女子選手権大会

1回戦 滝下メ— 喜多(兵庫)

2回戦 滝下—メ西野(東京)

◎第66回国民体育大会

10月2日~4日 下関市

成年男子1回戦 石川1—④佐賀

先 土谷—メ河口

中 星野メ— 笹川

大 山田—メ稲富

北野—メ江島

少年女子1回戦 熊本1—③石川

先 谷山コ— 鮎田

中 古田—コ岡田

大 垣田—メ山本

堤—メ森田

準々決勝 神奈川③—2石川

先 棚本メ— 鮎田

野呂田—メ岡田

中 山田ド— 山本

大 古谷田—ド森田

阿部ド— 澤田

◎第24回全国健康福祉祭

10月15日~18日 菊地市

決勝T1回戦 石川0—③京都市

◎第46回全日本居合道大会

10月22日(土) 愛媛県

五段 中村1—②畝原(宮崎)

六段 作田0—③金子原(兵庫)

七段 松原③—0板垣(島根)

③—0赤谷(宮城)

1—②木ノ本(愛知)

◎第59回全日本選手権大会

11月3日(祝) 日本武道館

1回戦 中村—コ岩下(千葉)



剣道 八段

安江 正紀

剣道 七段

谷口 智 室谷 茂男

山本 孝人 野村 勉

間庭喜久夫 三嶋 勇一

石井 敬 吉浦 英一

竹田 芳幸 河合 峰嘉

中橋 雅彦 川口 憲一

直喜 秀孜

六段 山下 宏光 佐藤 博之

橋場 希輔 横井 隆明

高木 賢治 小浦 克彦

居合道 六段 金谷啓次郎 西 浩二

高橋 吉隆

高橋 吉隆

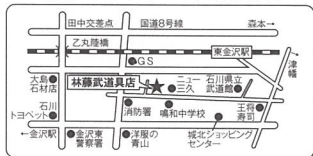
林藤武道具店

〒920-0803 石川県金沢市神宮寺町1番地83
Tel.076-252-2220 Fax.076-252-2240
E-mail:budou@chive.ocn.ne.jp

【営業品目】

剣道・柔道・空手・なぎなた・武道具全般
(刺繍・ゼッケン・ネームプリントも承ります)

●定休日/月曜日



武道具の
ハシメト

金沢市上荒屋7丁目67 TEL249-8233
〒921-8065 FAX249-9139